

舵輪

第167号
2023年 新春 発行



舵輪は(公財)伏木富山港・海王丸財団の機関誌です

167号

海王丸ボランティアの皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。昨年度は、総帆展帆を再開することができ、コロナ禍前の活気が少しずつ取り戻される一年となりました。これもひとえに海王丸ボランティアの皆様方のご理解とご尽力のおかげであり、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

本号では、2022年下半期の活動について報告いたします。

1210日ぶりのフルセイル

2022年度は天候にも恵まれ、全11回の総帆展帆を実施することができました。年度当初は、新たな墜落制止用器具の導入や約2年半ぶりの活動でボランティアの方の参加が少なかったこともあり29枚全ての帆を広げることとはできませんでしたが新聞等で人手不足を取り上げられたこともあり、昨年は新規で42名の方にボランティア登録をしていただきま

した。また、総帆展帆参加時にボランティアの皆様には昼休憩の時間内ではありましたが、墜落制止用器具の取扱訓練やガスキットの取扱について特別訓練にご協力いただきました。その甲斐もあり、11月6日の2022年最後の展帆では、フルセイル(全29枚)を達成いたしました。フルセイル達成は実に1210日ぶりとなります。

昨年の展帆ボランティアにご参加いただいた方は延べ687名となりました。今年度も多くの皆様の展帆へのご参加お待ちしております。



檣上作業中の様子



力を合わせてギアを引く様子

運動会ネプチュニアード

コロナ禍の影響で休止していたネプチュニアード2022（海王丸ボランティア運動会）が最終展帆日の11月6日にシェルステージにおいて2年ぶりに開催することができました。競技は輪投げとガスケトリレー。白熱した競技の結果優勝はメインマストの皆さんでした。おめでとうございます。



競技中～輪投げ～



競技中～ガスケトリレー～

甲板ボランティア

約10年ぶりに甲板ボランティアの活動がスタートしました。前号でも紹介しましたが、甲板ボランティアとは展帆以外にも海王丸保存のために必要な作業をお手伝いしていただく活動です。

今回は、海王丸のバウスプリットに広げられるアウタージブとインナージブの作成を行っています。11月3日には裁断という、反物になっているキャンパスをステイスルの形に切り出す作業を実施いたしました。



セイル裁断の様子

11月27日と12月11日には、裁断したキャンパスを縫い合わせるシーミング作業を行いました。シーミングとは、ニードルと呼ばれる裁縫用より大きい針にツワインと呼ばれる蠟引きした糸を使ってキャンパス同士を縫い合わせる作業です。キャンパスは重ねると暑くなりニードルが通しにくくなるため、手にはパームと呼ばれるプロテクターをつけてニードルを押し込みます。細かな作業で、参加されたボランティアさんは皆さん集中して取り組まれていました。

今年も第2・第4日曜日を甲板ボランティア日といたします。2023年の初回は1月22日の日曜日です。参加を希望される方は、当日、防災センターにある甲板ボランティア参加記録のファイルに氏名と作業開始時間をご記入のうえ、船内の作業場までお越しください。皆様のご参加をお待ちしております。



シーミング要領説明



シーミング作業中

いりますので、ボランティアの皆様も引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



精勤賞表彰式の様子



挨拶される夏野射水市長

令和4年ボランティアの集い

12月3日にクロスベイ新湊において令和4年度海王丸ボランティアの集いを開催しました。今年度もコロナ禍の影響で立食形式での懇談会はできませんでしたが、ご来賓をお招きした精勤賞の表彰式を行いました。今年度は、精勤賞として展帆ボランティアからは44名、甲板ボランティアからは3名の方々が受賞されました。海王丸の総帆展帆に多くの時間を割いていただきありがとうございます。

なお、精勤賞は、総帆展帆開催の8割参加されたボランティアの方、甲板ボランティアに35時間以上従事された方が受賞対象となります。

また、来賓としてご臨席いただいた、射水市長の夏野元志様と県土木部長の市井昌彦様からは温かい激励と感謝のお言葉を頂きました。

今後も海王丸は富山県、射水市そしてこの新湊地区の顔として、美しい姿を訪れる人に披露できるように、海事課、事務局一同で努めてま

餅つき大会

海王丸ボランティアの集い終了後、3年ぶりに餅つき大会を実施し、多くのボランティアの皆様にご参加いただきました。

日本では遥か昔から、稲は神聖な食べ物と考えられてきました。その稲から収穫されるお米は生命力を高めるものとして、とても大切に扱われています。この稲作信仰というものがある日本では、米を固めて食べる餅は人々の生命力を強める神聖な食べ物と考えられ、祝いの日や特別な日には餅つきを行うようになったと伝えられています。また、餅つきは一人ではできないため、皆の連帯感を高め喜びを分かち合う意味合いもあります。近年のコロナ禍においては、人とのつながりが少なくなりがちですが、総帆展帆は一人では実施できません。今後も、ボランティアの皆様と連携し、海王丸をこれまで以上に盛り上げていきたいと思ひます。



餅つきの様子



お餅作成中

皆既月食

11月8日に皆既月食と天王星食が日本各地で観測できました。海王丸パークでは月食が始まってすぐに月が雲に隠れてしまいましたが、海王丸では船飾を特別にレインボーにして、観測に来た多くの方々に楽しんでいただきました。



七色に輝く海王丸と月食

編集後記

12月下旬から降った雪は私の人生において最も多く積もった大雪でした。これほど積もった雪の上を歩いたこともなければ、雪かきも初めての経験でした。雪が降った日は少しテンションが上がっていましたが、今はこの冬を無事に乗り切れるのか不安でいっぱいです（汗）今年の冬はコロナだけでなくインフルエンザも流行しそうです。皆様も体調には十分お気を付けください。（大）

今後の予定について

2023年

- 1月 9日（月・祝）非公開区域特別公開
- 2月14日（火）非公開区域特別公開
- 2月15日（水）船体整備期間
- ～3月10日（金）（一般公開中止）
- 4月 8日（土）バンディングセイル
- 9日（日）（リフレッシュ訓練）

舵輪 第167号
 発行日 2023年1月
 E-mail
 by-the-wind@kaiwomaru.jp

公益財団法人 伏木富山港・海王丸財団
 〒934-0023 富山県射水市海王町8番地
 TEL 0766-82-5181
 FAX 0766-82-5197
 URL <http://www.kaiwomaru.jp>